

熊建労 震災ニュース

2026 年（令和 8 年）熊本地震 特別号

2026 年 8 月 3 日(月) 第 2 号

発行 中本稔教宣部長

TEL096-234-8805



全国から届いた支援が、 被災した仲間を支える

八代支部で支援活動と新たな仲間

地震発生から4日 事務所内は割れたガラ 後の8月1日（土）、 スや散乱した書類、 被災した八代支部の 大型キャビネットが 片付けと支援活動の 倒れるなど、足の踏 み場もない状況でし た。

ため、全国の仲間か ら寄せられたブルー シートや土のう袋、 飲料水、カップラー メンなどの支援物資 を宣伝カーやトラッ クいっぱい積み込 み、現地へ向かいま した。

猛暑の中、片付け を進めていると、被災した組合員が次々と支部を訪れました。ブルーシートな どの支援物資を受け 取りに来る方、生活 用水を確保するため 空のペットボトルや ポリタンクを持って 何度も水を汲みに来 る方など、その表情 からは厳しい生活が 続いていることが伝 わってきます。

八代へ向かう道中 では、傾いた家や倒 壊した家屋、波打っ た道路、瓦礫の残る 街並みが広がり、ガ ソリンスタンドには 長蛇の列ができるな ど、震災の大きさを 物語っていました。

「これで水汲みは 4回目です。本当に 助かります」そう話 す組合員は、自宅の 浴槽に水をため、洗 い物やトイレ、体を 拭くための生活用水 として大切に使用 していると話してくださ いました。「汗拭きシ ートが助かります。 風呂にも入れないので」「ポリタンクが手 に入らなかったの で ありがとうございます」

全国から届けられ た支援物資に、多く の感謝の声が寄せら れました。支部では 「少しでも涼んでい ってください」と冷 たい飲み物やカップ ラーメンを勧めまし たが、「家で子どもが 待っているから」と 支援物資を手「本 当にありがとうございます」と深々と頭 を下げ、汗だくで帰



っていく姿がとても印象的でした。

が心配される状況です。

地震翌日から続けている電話での安否確認では、電気は比較的復旧している世帯が多い一方、鏡地区や氷川町を中心に大きな被害が確認されました。特に断水は深刻で、八代地域全体の約8割の世帯で続いています。

そんな中、うれしい出来事も

していた中本常任がすぐに持参し、その場で加入手続きを行うことができました。被災の中でも、新たな仲間が加わる心強い一歩となりました。

現在、は徐々に復旧が進んでいるものの、飲料水や食料、割り箸など生活に欠かせない物資は依然として不足しています。

委員長を心配して、若い元組合員と未加入の30代の大工さんが八代支部を訪ねてくださいました。応急仮設木造住宅建設への参加について説明すると、「加

入します!」「ぜひ参加させてほしい」と快く組合加入を決定してくださいます。地震で事務所内書類が散乱し加入申込書が見当たりませんでしたが、いつも車に申込書を常備

連日の40度近い猛暑も重なり、被災された方々や復旧作業にあたる仲間の体調

は書類が散乱し加入申込書が見当たりませんでしたが、いつも車に申込書を常備

全国から寄せられる温かい支援は、被災した仲間の暮らしを支える大きな力となっています。そして、その支援の輪は新たな仲間との出会いにもつながっています。厳しい状況は続いています。熊

建労は仲間と支え合

いながら、一日も早い熊本の復旧・復興に向けて全力で取り組んでいきます。

仲間をみなさんへ

心温まるご支援をいただき、心より感謝申し上げます。おかげさまでブルーシートは必要数を確保することができました。現在は断水が続く地域が多く、飲料水や保存のきく食料が不足しています。引き続き、ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

謹んで哀悼の意を表します

このたびの2026年熊本地震により、組合関係者にも尊い命が失われる被害がありました。犠牲となられた方々に心より哀悼の意を表しますとともに、ご遺族並びに被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます。